

施策評価シート(令和4年度実施施策)

総合計画 体系	政策No.	1	政策名	自然に配慮した環境づくり	施策主管課	建設水道課
	施策No.	1-3	施策名	交通体系の充実	施策主管 課長名	加藤 定行
関係課	政策財政課 建設水道課					

1. 施策の目的

対 象	A 町域	意 図	A 地域を結ぶ安全で快適な交通環境が整備・維持されている
	B 町民		B 交通弱者にもやさしい交通機関を利用して盛んに移動している

2. 成果指標

指標名		単位	現状値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①	A 町内の道路での移動に不便を感じている町民の割合(減少)(現状値:H28-30平均)	%	34.5	31.7	31.3	31	30.7	30.5
				36.5	36			
②	B 公共交通での移動に日常的に不便を感じる町民の割合(減少)(現状値:H28-30平均)	%	13.1	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6
				10.5	9.5			
③								
④								

3. 指標の分析(成果が向上した、またはしなかった理由)

①	良好な道路状況を維持するため舗装補修及び道路施設の修繕を実施しており、また、令和4年度は降雪が少なく、通勤通学時まで丁寧な除雪ができたことが減少の要因と考えられる。
②	AIを活用したデマンド交通配車システムの導入による利便性の向上や地区ごとの乗り継ぎ制の廃止などが、成果の向上に寄与したものとする。また、あいあいタクシーの利用者も前年度に比べ年間で1000人以上増加し、高齢者等の日常的な移動手段として定着しつつあることも、成果向上の一因と思われる。
③	
④	

4. 課題に対する取組(今年度重点的に取り組んだ課題)

<ul style="list-style-type: none"> 道路を常に良好な状態に保つため、舗装補修及び道路施設の修繕を行うと共に狭い道路の整備を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、除雪機械オペレーターにおいては、班毎での分散勤務体制を執った。 新たにデマンド交通システムにAIを導入し、定時制から随時運行への運行形態の変更や地区ごとの乗り継ぎ制の廃止等、デマンド交通の利便性の向上を図った。 只見線全線開通の実現に向けた取組に町として参画し、全線開通記念イベント等に協力した。

5. 次年度の方向性(施策の方向性と次年度以降重点的に取り組む課題)

<p>道路やそれに付随する施設の改良及び修繕計画に基づき工事を実施するとともに、冬期間においては効率的な除雪に努め、良好な道路環境を確保する。鉄道、路線バス及びデマンド交通を一体的に捉え、町民のニーズを踏まえ、公共交通のさらなる利便性の向上と利用促進を図る。</p>

6. 施策を構成する事務事業（方向性と次年度以降重点的に取り組む主要な事業）

番号	事業通番	事務事業名	令和4年度決算額 (千円)	最終評価結果			主要事業
				成果の方向性	コストの方向性	今後の方向性	
1	4371	道路等負担金事業	535	評価対象外	評価対象外	評価対象外	
2	4568	道路新設改良等事業	135,014	現状維持	現状維持	⑤現状維持	○
3	4712	公共交通利用促進事業	74,151	拡充	縮小	④協働化改善	○
4	14010	防雪柵整備事業	100	評価対象外	評価対象外	評価対象外	
5	16755	除雪対策事業	133,739	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
6	16756	道路維持管理事業	173,655	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
7	16757	橋梁長寿命化補修事業	44,314	現状維持	現状維持	⑤現状維持	